

「飼料及び堆肥に残留する除草剤（クロピラリド）の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」等の改訂について

1. マニュアル及び影響データ集の改正内容

令和元年度から令和2年度に、RS事業において、研究課題「堆肥中のクロピラリドによる生育障害を防ぐための技術開発」を実施。RS事業等の成果を受けて、「飼料及び堆肥に残留する除草剤（クロピラリド）の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」及び「土壌中クロピラリドが野菜・花きの初期生育に及ぼす影響・データ集」を国立研究法人 農業・食品産業技術総合研究機構において改訂。

(1) 農作物のクロピラリド耐性の評価

指導通知の改正と同様に、マニュアルの耐性表も更新。

(2) 生育障害が発生しない堆肥施用量の提示

機器分析により堆肥中クロピラリド濃度が得られた場合の施用量の目安及び事前検査なしの場合の施用量の目安について、マニュアル及びチラシに提示。

- ・ 事前検査ありの場合：堆肥中のクロピラリド濃度毎に、最大施用量を提示
(例) 耐性「弱」の作物：30 $\mu\text{g}/\text{kg}$ の場合 4.9t/10a、50 $\mu\text{g}/\text{kg}$ の場合 2.9t/10a
- ・ 事前検査なしの場合：全国調査で得られた堆肥中のクロピラリド濃度の分布に基づきシミュレーションした結果を用いて、施用量の目安を提示。

○各堆肥中クロピラリド濃度（不明の場合及び10～100 $\mu\text{g}/\text{kg-DW}$ ）における作物のクロピラリド耐性に応じた施用可能な堆肥量の例（t/10a）

	10 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	20 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	30 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	40 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	50 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	60 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	70 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	80 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	90 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	100 ($\mu\text{g}/\text{kg-DW}$)	(参考) 不明 ^{※1}
極弱	2.9 (t/10a)	1.5 (t/10a)	1.0 (t/10a)	0.7 (t/10a)	0.6 (t/10a)	0.5 (t/10a)	0.4 (t/10a)	0.4 (t/10a)	0.3 (t/10a)	0.3 (t/10a)	0.48 (t/10a)
弱	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	2.9 (t/10a)	2.4 (t/10a)	2.1 (t/10a)	1.8 (t/10a)	1.6 (t/10a)	1.5 (t/10a)	2.45 (t/10a)
中以上	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)	3 ^{※2} (t/10a)

※1 クロピラリド濃度不明の計算値は、全国堆肥中クロピラリド濃度分布を基に推定した施用量の目安です。クロピラリド耐性が極弱や弱の作物では、施用前に生物検定や残留分析を行い、生育障害が発生しないことを確認してから施用してください。

※2 施用量は都道府県の施肥基準を順守してください。ここでは3 t/10aを上限にしています。

(3) 戻し堆肥（※）利用に係る留意事項の追加

戻し堆肥を繰り返し利用した場合は堆肥中のクロピラリド濃度が高まるという事実とともに、以下内容をマニュアルに記載する。

- ・ 戻し堆肥だけで水分調整することはできるだけ避け、オガ粉やモミガラなど他の副資材を併用すること
- ・ 、多量の戻し堆肥を水分調整に利用した場合は、まずはクロピラリド耐性が高いイネ科牧草やイネ科作物等の自給飼料作物への施用等自家利用することを優先すること

※ 出来上がった堆肥を、新たな堆肥を生産する時の水分調整等のために再利用すること

(4) 農産物の残留基準値の超過に係る留意事項の追加

農産物中のクロピラリド濃度が残留基準値（野菜等の多くで一律基準（0.01mg/kg）が適用）を超えないようにするため、生育障害が確認されたら栽培を中止する旨をマニュアルに記載。

(5) データ集の事例等の追加

下記の事例について写真等を追加

- (主な症例) 縮葉、カッピング、葉脈の巻き込み・巻き上がり、葉脈透過、葉柄または葉軸の湾曲、組織の肥厚化・白化・壊死、葉以外の器官における症状
(野菜) リョクトウ、シュンギク、結球レタス、リーフレタス、ズッキーニ、オクラ、セロリ（セルリー）、ニンジン、ダイコン、キャベツ、ハクサイ、コマツナ、ホウレンソウ、サツマイモ、イチゴ、ニラ、オオムギ
(花き) ペチュニア、ガーベラ、ダリア、ケイトウ、リンドウ、ラナンキュラス、デルフィニウム、ナデシコ、キンギョソウ、ニチニチソウ、ストック、サルビア、ペゴニア、プリムラ、インパチエンス